

観音神社

かつての観音地域にあった七つの氏神の神々を二度にわたって(明治43・昭和34)まとめ、この地に観音神社として生まれかわりました。入り口にある大きな根っちはかつての神木「楠」(⑦参照)で、この木に両手をあて願い事を唱えつつ祈りました。五十年近く前の神木伐採を惜しみその根を大切に保管してきました。また、狛犬(アウン男)の頭のくぼみ(盃状穴)に米や粟などの穀物を入れ指先でこすりながら家族の幸せを祈りました。

地域の人々は氏神様を心のよりどころとしていたのです。神殿は倉重の高山神社(①参照)のものを移したものです。



道しるべ

道が左右に分かれるところの隅っこに、おやっと思うような字を彫りこんだ石柱を見かけることがあります。「右○○、左○○」と行き先が石に刻んであります。これを道しるべといいます。石に彫りこんであるので消えることもないし、朽ちてなくなることもあります。昔の人たちはここで立ち止まり、道を確かめて行き先をめざして歩いていったのでしょう。



善正寺

1570年力もちで名高い坪井将監(しょうげん)の父 因幡が開きました。が、1605年福島正則によって寺は焼き払われ寺領没収となりました。後に再び興され今にいたっています。

学問寺であり明治以前「強縁」(ごうえん)という方が学問を修める善正学舎をつくりました。学校のまだなかった子供たちはここで文字を習ったのでしょう。後に小学校へと発展していきました。



五日市観音小学校の元場所

善正寺西隣に石垣が長く続いているところがあります。明治24(1891)年から昭和2(1927)年までここに現在の五日市観音小学校の前身観音小学校があったのです。東側下の木の植え込みになっている所が運動場でした。入り口正門があったところは、石の積み方が変わっているのすぐわかります。

石垣を横から見るとお城の石垣のように上に向かって反っています。腕のいい石工さんが築かれたのでしょう。石の所々に一辺5cm位の四角の穴があります。石を運ぶ機械のない頃大きな石を運ぶのに利用された穴だそうです。昔の人の工夫を見ることができます。



社倉・宮本武蔵宿泊の地

江戸時代たびたびおこる天災にそなえ、救麦(すくいむぎ)といって麦をたくわえておく倉をつくりました。倉重 千同 坪井 三宅 屋代と各村にありました。飢饉の時は大きな効果を表しました。

この地に宮本武蔵がとまったとの言い伝えもあります。



坪井古墳跡

かつて四宝神社があったその裏手に古墳があり、横穴式石棺がありました。石棺に使われていた石材は、神社拡張の時に使われたり、そばを流れる小川の蓋になっていますが、今古墳そのものを見ることはできません。この石棺をとる人の人は「カロート」と言っていました。



横穴式石棺の一部ではないかと書かれている。

四宝神社跡

かつて五日市観音地域には各村に氏神がまつてありました。明治43(1910)年、各村の氏神6社(千同の白鳥神社・坪井の若生神社・三宅の武内神社 貴船神社 蒲神社・屋代の工宮神社)をこの地にあった若生神社にまとめ四宝神社としました。ここにはこんもり繁った神木「楠木」(⑦参照)があり、どっしりした神殿がありました。秋には田んぼに祭り太鼓を響かせ露店も出てにぎわったものでした。今はあとかたもありません。



しょうげん 坪井将監の力石

将監は坪井の地に生まれ、厳島合戦で毛利方として戦った武将です。後に善正寺の僧となりました。怪力で名高く、極楽寺山の裏参道に横たわり通行の妨げとなっていた大石を持ち帰りました。これが今も残っている力石です。およそ240キログラムあります。

